

寺町散歩（2）「河東山禅林寺」

史談会幹事 村崎春樹

坂本龍馬が、日本最初の商社として創設した亀山社中跡と云われる亀山社中記念館が有る伊良林から、龍馬通りとして整備された坂を寺町に降りて行くと、龍馬通りが寺町通りに交わる所に、東北に光源寺、西南に龍馬通りを挟んで深崇寺、前面を寺町通りに面している河東山禅林寺がある。禅林寺初代住持は、長崎市史によれば、寛永の頃、久留米より長崎へ来た石峯祖芳であり、当時の長崎奉行馬場三郎左衛門に知遇を得て長崎奉行所書物改役に任じられたとある。その後、正保元年(1644)に長崎奉行馬場三郎左衛門によって一寺を創建することを許され、頼川独健から寺地の寄進を受け、現在地に禅林寺を創建した。長崎市史によれば、承応3年(1654)唐僧隠元が、長崎に渡来し興福寺に入るや、隠元に面会。翌明応元年(1655)8月隠元禅師は、禅林寺住持石峯祖芳の依頼を受けて禅林寺の山門の額を書いたとされているが、その額の所在は不明である。宝永2年(1705)12月泉屋儀右衛門の母より梵鐘を禅林寺に寄贈されたが、戦時中に金属供出され、現在の梵鐘は昭和50年(1975)10月に新鑄されたものである。享和2年(1802)南向きであった山門を現在の西向きに第14代住持随堂



が建てなおした。大正10年(1921)当時の禅林寺の境内は、西南向きに本堂があり、本堂前面には文化13年(1816)5月中村盛右衛門寄進の石灯笼1対があるとされており、今も現存している。石灯笼正面下段には中村盛右衛門仲熙敬立、上段には文化十三年丙子五月、裏面下段に常夜灯、上段には永歳とある。更に庫裡、経蔵、地蔵堂、鐘楼、不動堂、山門などの建物と大宝塔、法華塔、血盆経塔、石一字塔、宝塔、他に銀杏樹などがあつたと長崎市史にある。現在は山門並びに鐘楼、庫裡を除き、当時の建物は現存しないが、新たに鉄筋コンクリート造り二階建ての本堂(錬成道場、納骨堂を含む)が山門脇にある。旧本堂跡は、空き地となり本堂につづく石畳が当時を窺わせるのみである。禅林寺山門に入ると、正面にひときわ高く大宝塔があるが、これは文化4年(1807)春に伊勢町の人々が同町内(具体的な場所は不明)に立てた

物で、明治維新後の廃仏棄釈の気運の高まりに伴い、禅林寺境内に移されたものである。大宝塔の前にある石像のうち弘法大師石像、地藏尊石像、不動尊石像など4体は、明治2年(1869)2月大行寺廃絶により、禅林寺に移されたもの



であるが、現在は多くの石像に埋もれて確認が出来ない。新本堂前右側に、法華塔があり正面(南面)には法華塔の文字、右側(東側)には寶曆六年丙子天十月就日とある、左側(西側)は磨耗著しく文字が有るのは確認できるが判読不能である。長崎市史によれば、この法華塔は寶曆6年(1756)10月無三寛乗が立てたとある。更に同じ場所に、安永7年(1778)2月8日梅郷堂一得が建てた血盆



経塔、安永8年(1779)6月26日に武内太右衛門が建てた石一字塔がある。禅林寺山門より奥にある階段をのぼり、境内の奥まった場所に三体の石像があり、一体は正面下部に、たつ江みづきうしくわん 多喜昇太郎久枝とあり、側面には大正4年10月24日建立の銘がある。他の石像は鳩の上に釈迦如来が乗り正面下部には釈迦如来の

銘、側面には多喜昇太郎 久枝の銘ある。残り一体は鹿の上に文殊菩薩が乗ったもので正面下部には文殊菩薩、左側面には多喜昇太郎 久枝、右側には大正六年四月二十一日建立とある。山門正面の奥の階段脇には、昭和5年(1930)の盆踊り創始記念碑がある。禅林寺後山には慶応2年(1866)8月玄界灘において遭難した長崎南画三筆の一人木下逸雲の墓がある。

寺町散歩(巍巍山光源寺)の訂正のお願い
前回の文章の中で一部誤字脱字ありましたので訂正をお願いします。

巍巍山光源寺 → 巍巍山光源寺

肥後柳川 → 筑後柳川

明治30年代 → 明治31年13代住持として光源寺に入った楠活雷の時代

延享五歳舎辰 → 延享五歳舎戌辰